



湘北短期大学図書館
としょかんNEWS

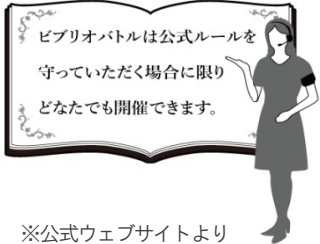
vol.124

2017.8.1 発行

今月は夏休み特別号。さぼ一ち倶楽部が楽しそうに開催している“ビブリオバトル”ってなに？と思っているあなた！本好きの特別の人だけが行うものだと思いませんか？いいえ！条件がそろえば誰だって楽しんで挑戦できるものなのです。これから読書の秋に向けて、全国大学ビブリオバトルをはじめ、各所で学生の熱いバトルが繰り広げられることでしょう。ここで、ビブリオバトルのなりたちと魅力についてお伝えします。

特集：ビブリオバトルってなに！？

わずか10年ほどで全国的に広まった“ビブリオバトル”。「知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト」には、右のように“公式ルールを守っていただく場合に限りどなたでも開催できます”と記載されています。公式ルールと聞くとちょっと面倒な印象をうけますが、ルールはたったの4つ！とてもシンプルでエキサイティングなゲームなのです。



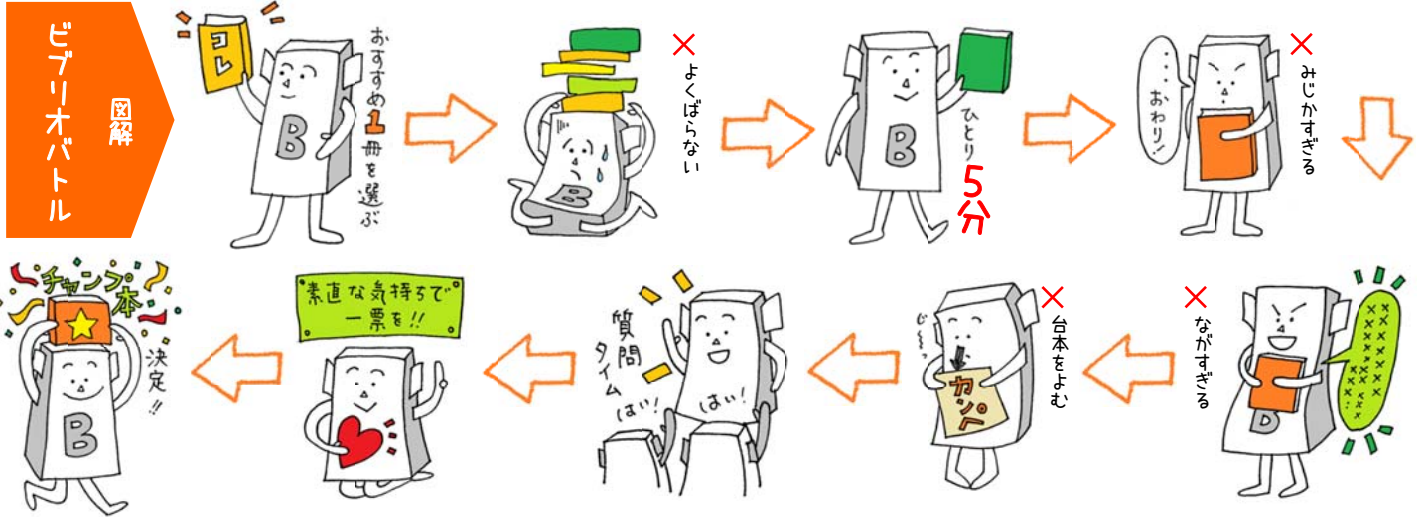
※公式ウェブサイトより

はじめに

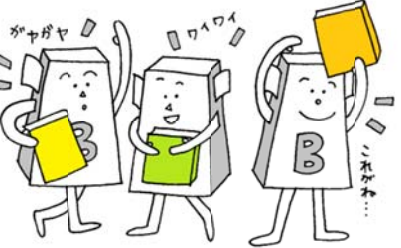
約10年前、“イイ本に出逢える仕組み”を、“何か面白いやり方で”と、京都大学のとある研究室が考案し、試行錯誤のすえ、ビブリオバトルが誕生しました。即興性を大切にレジュメもなく本を紹介しよう。学生たちの実験的な積み重ねによって、現在の公式ルールが生み出されたのです。

公式ルール

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員で、その発表に関するディスカッションを2〜3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。



活字離れと言われて久しいですが、面白い場さえあれば、本はもっと楽しくなるはず。本は私たちにたくさんの知識を与え、そして、その知識は私たちの人生を豊かにしてくれます。一人で読むばかりが本の楽しみ方ではありません。オープンマインドで本を通してコミュニケーションを楽しむ！そのひとつが、ビブリオバトルです。



イイ本に出逢える

- 好きな本を通して、その“人”や“人柄”に出逢える
- 新たな、意外な“本”に出逢える
- 5分の語りを通して自分を表現できる
- 言葉で堂々とアピールできるようになる
- プレゼンテーションスキルが飛躍的に向上する

さぼ一ち倶楽部、ビブリオバトル実践！

新たなメンバー6名を迎えたさぼ一ち倶楽部。6月28日（水）、図書館（アクティブラーニングスペース）で第15回ビブリオバトルを実践しました。バトルは7名、新人1年生も臆することなく熱いバトルを繰り広げました。ご興味ある方は、図書館カウンターまでお気軽にお問い合わせください。



アクティブラーニングスペースにて



一斉に指さし投票



チャンプ

『この闇と光』

★★★★

服部まゆみ著/KADOKAWA/2014年

請求記号【は/32】（文庫コーナー）

第2位

『愛をみつけたうさぎ』

★★

ケイト・ディカミロ作/ポプラ社/2016年

請求記号【933/デ】

実習おつかれさま！保育学科2年生おすすめ絵本、結果発表

保育学科2年生のみなさん、1カ月間の実習、おつかれさまでした。図書館では今後の資料購入の参考にさせていただくために、今回の実習で子供たちに絵本や紙芝居を読み聞かせをして、“これはおすすめ！”というものを保育学科2年生にアドバイスつきでご回答いただきました。その結果は図書館内と4号館1階掲示板に掲示しています。保育学科1年生は来年の実習の参考になりますので、ぜひご覧ください。図書館では、来年もアンケートを実施して、みなさんの実習や課題を応援していきたいと思っています。



保育2年生のおすすめ

図書館ギャラリー、いつでもオープン！



生活プロデュース2年「創作絵本の制作展」

授業の課題で作った作品など、学科が違っても知る・見る機会がありません。それはもったいない！図書館のスペースを利用して、みなさんの作品や成果物の発表の場にしてみませんか？現在は、生活プロデュース学科「創作絵本の制作」の授業で制作した作品、かわいい絵本18点を図書館2階、絵本コーナー棚上に展示中。説明ボード、ポップも学生の手作りです。この「創作絵本の制作展」は9/29迄、開催しています。ぜひ、お手に取ってご覧ください。

この図書館ギャラリーは、同好会、サークルの発表の場としてもご利用いただけます。

連載

Relay Essay No.40

「生きることと仕事をする事」保育学科 大川なつか

湘北短期大学を卒業すると、ほとんどの人は社会人として仕事を始めることと思います。きっと湘北の卒業生らしく、責任と自覚をもって励むことでしょう。

近頃「ライフワークバランス」という言葉をよく耳にするようになりました。これは自分の時間を仕事だけにあてるのではなく、家庭、趣味、地域の活動、休養といった「仕事以外の生活」もバランスよく取り入れて、充実した生活を送るということです。オンとオフをしっかりと区別することで、互いに良い影響を与え自分自身の生活が生き生きとし、ひいては社会全体の活性化にもつながると考えられています。けれども、オンとオフという表現にとらわれてしまうと、つい仕事とそれ以外の日常は切り離された全く別々の世界であるように感じてしまいます。

和辻哲郎という哲学者は「生きることと作ること」（『偶像再興・面とペルソナ 和辻哲郎感想集』講談社文芸文庫、2007年所収）というショートエッセイの中で、「生活態度の質実はやがて製作態度をも質実にするだろう」と言っています。自身の作品を反省的に思考しながら、生き方そのものが仕事の在りようにも表れてくるということを私たちに鋭く訴えているのです。

この本に書かれている内容をすべて理解する必要はありません。一つでも心に残る言葉に出会うつもりで読んでみてください。「青空文庫」というインターネット図書館のアプリを利用すると簡単に読むことができます。これから社会に出る皆さんに生き方のヒントを与えてくれることと思います。